平成３０年度　授業改善推進プラン

【学校名　立川市立第六小学校】

１ 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

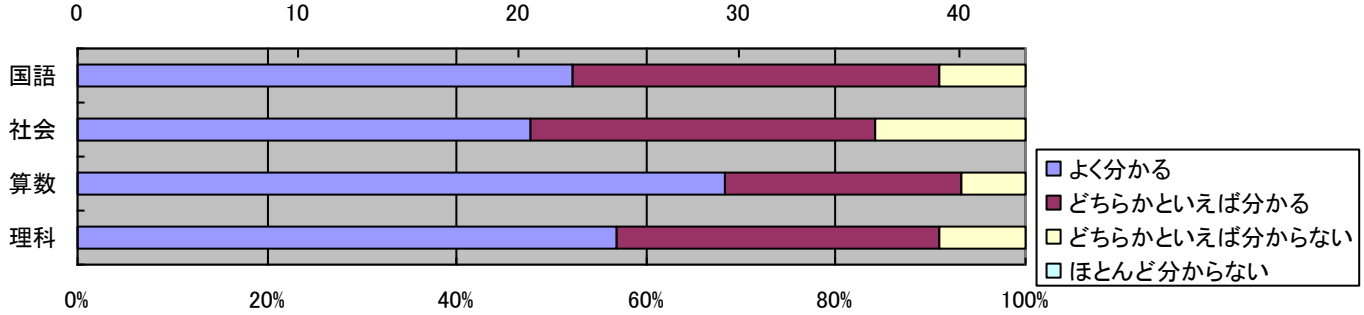
学力向上の基盤づくり（児童一人一人が主体的に考え、課題解決をしていく授業の実現を目指して）

２ 児童・生徒の現状（上記1を踏まえて）

◆「平成３０年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析（小学校５年生）

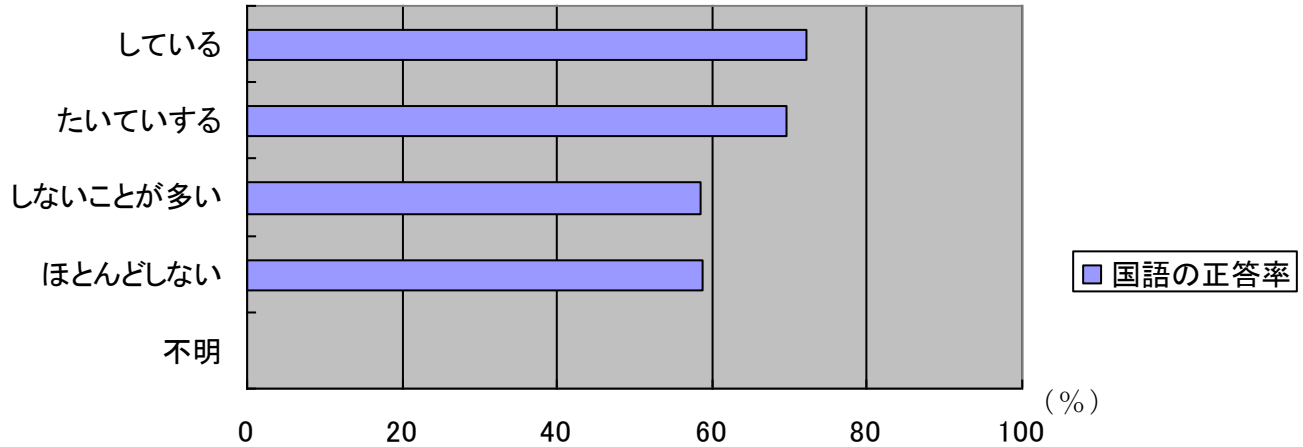
(1) 児童・生徒質問紙結果分析

○各教科の授業について、どのくらい分かりますか。



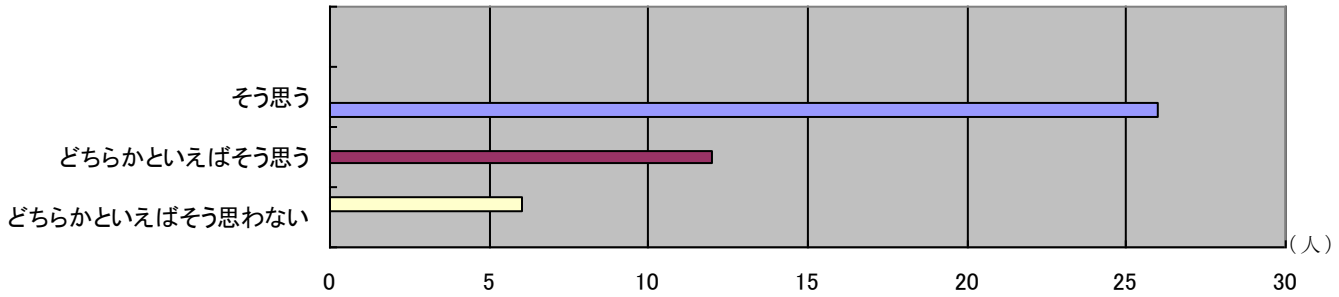
・授業が「よく分かる」、「分かる」と答えた児童の割合は、どの教科も肯定的評価が多かった。しかし、教科により差がある。算数は９３％が肯定的な評価だったが、社会は８４％だった。
・「分かる」理由としては、どの教科も、「自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから」が多かった。特に算数は、６８％の児童が理由に挙げている。社会科も５７％だった。また、「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから」も理由に挙げている児童が多く、どの教科も半数の児童が理由に挙げていた。
・理科では、「自分で予想し、それを確かめる授業が多い」、「観察したり、実験したりする授業が多い」が理由として多かった。国語では、「読書が好きだから」、社会では「世の中のできごとを知ることが好きだから」、算数では、「問題にはいろいろな解き方があるから」を理由に挙げている児童も多かった。
・算数や国語では、「宿題をきちんとやっているから」を理由に挙げている児童も半数以上いた。家庭学習の定着が、授業理解につながっていることが分かった。

○家の人と、学校や社会の出来事について話をしますか。



・家の人と、学校や社会の出来事について話を「している」、「たいていしている」と答えた児童の正答率は、国語の場合、約７０％に対し、「しない、ほとんどしない」の正答率は約５８％だった。家庭の人と、学校や社会の出来事について話をしていると答えた児童の国語の正答率は、話をしていないと答えた児童に比べて高かった。

○自分の住む地域や社会をよくしたいと思いますか。



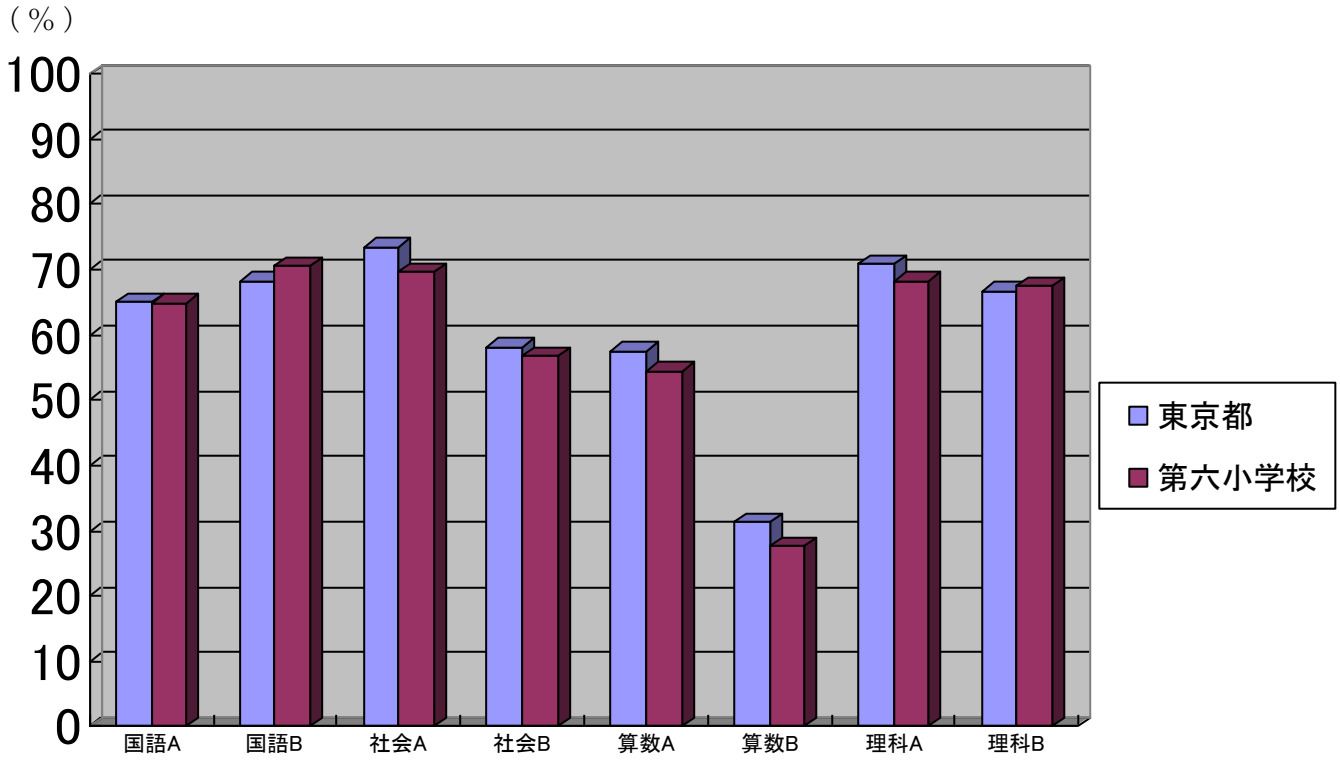
・自分の住む地域や社会を「よくしたいと思っている」と答えた児童が７２%いた。立川市民科を推進し、地域の一員としてまちに貢献しようとする子どもの意識が高まりつつあることが分かった。

（２）各教科の調査結果における正答率

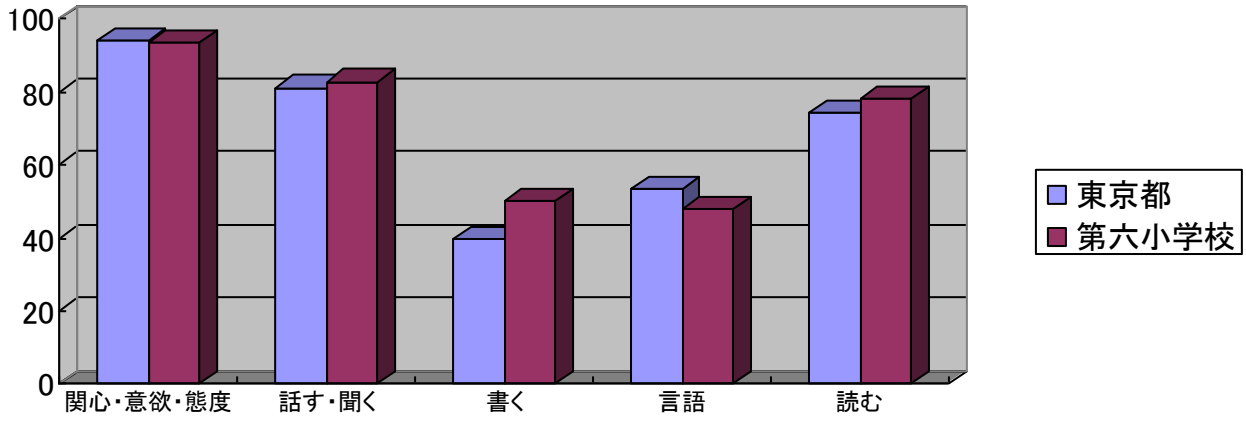
教科	A　教科の内容（%）										B　読み解く力に関する内容（%）					
	関心・意欲・態度		思考・判断・表現（国語：話す・聞く）		技能（国語：書く）		知識・理解（国語：言語）		読む		取り出す力		読み取る力		解決する力	
	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都
国語	93.2	**93.8**	82.6	**80.9**	50	**39.6**	47.7	**53.3**	78.0	**74.1**	77.3	**71.2**	68.2	**68.4**	65.9	**65.2**
社会	92	**87.4**	70.5	**71.6**	75.0	**77.7**	43.9	**60.9**			61.4	**70.6**	52.3	**52.2**	56.8	**51.6**
算数	79.5	**85.0**	31.1	**38.1**	64.2	**64.5**	49.5	**52.9**			46.6	**52.0**	19.3	**21.4**	17.0	**20.6**
理科	94.3	**91.0**	61.4	**60.7**	62.9	**64.0**	67.6	**78.4**			73.9	**71.2**	70.5	**70.9**	58.0	**58.0**

【東京都平均と第六小学校（５年生）との比較（正答率：%）】

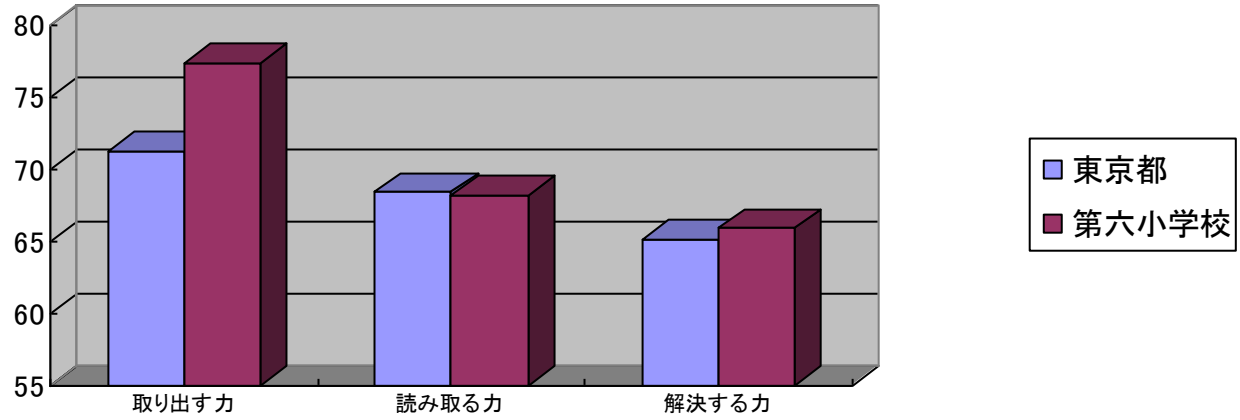
国語A（64.8）　国語B（70.5）　社会A（69.6）　社会B（56.8）
算数A（54.5）　算数B（27.7）　理科A（68.2）　理科B（67.4）



国 語 A



国 語 B



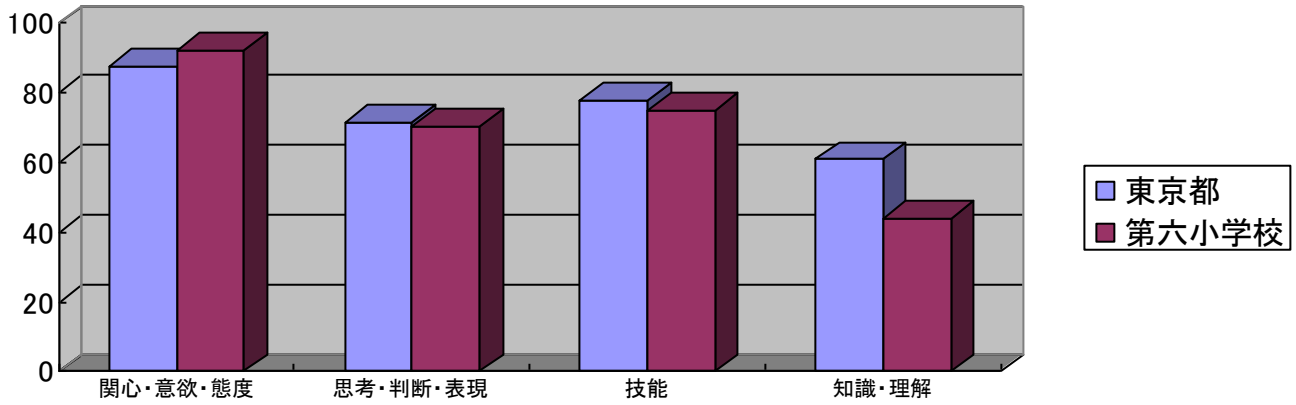
児童の現状

○「A　教科の内容」の「書く」では、都の平均を１０．９％と大きく上回った。
○「B　読み解く力に関する内容」の「取り出す力」は７７．３％と高く、都の平均より６．１ポイントも上回った。

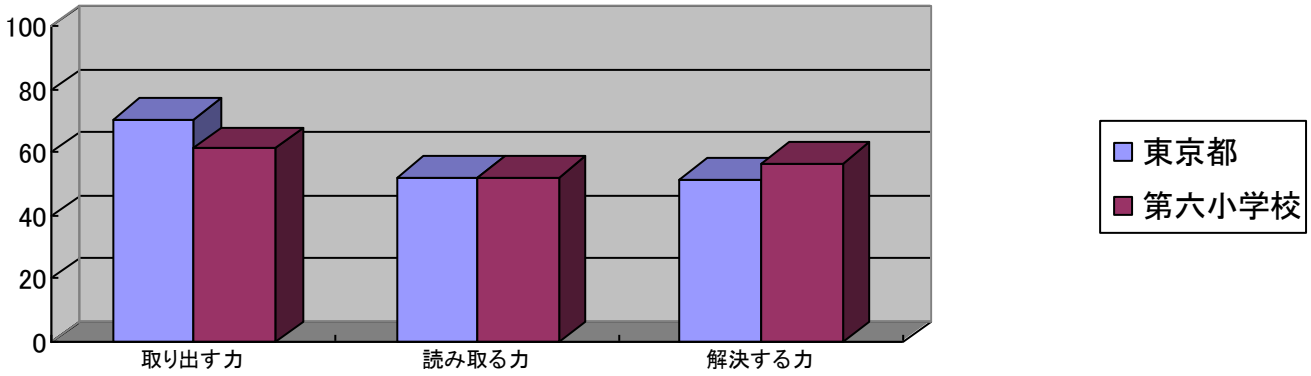
課題

●「A 教科の内容」の「関心・意欲・態度」は９３．２％と高かったが、都の平均と比べると、０．６ポイント下回った。さらに、関心・意欲を高める指導の工夫を図る必要がある。
●「A　教科の内容」の「言語」は４７．７％と低く、 都の平均よりも５．６ポイント低かった。漢字や言語についての理解・習熟を図る指導に力を入れる必要がある。

社会 A



社会 B



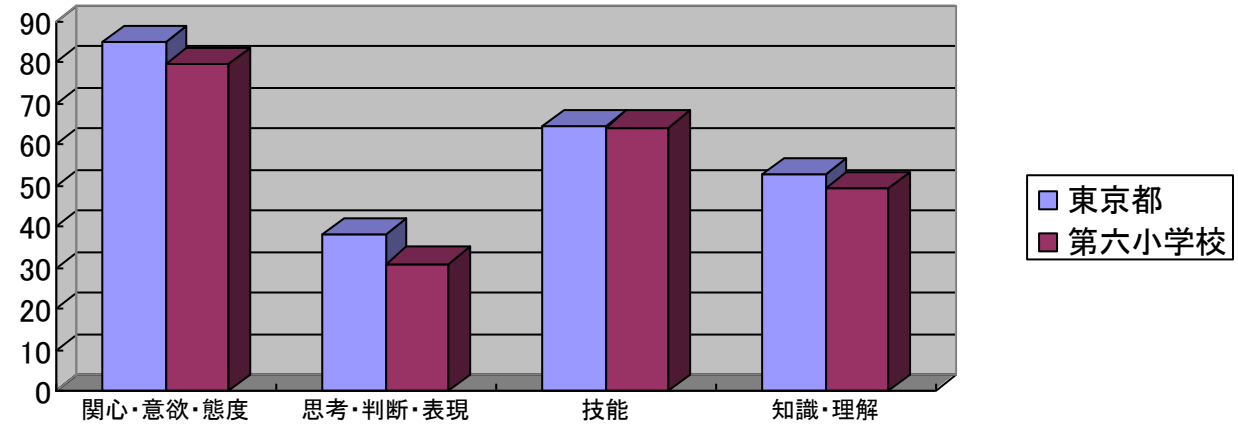
児童の現状

○「A　教科の内容」の「関心・意欲・態度」が９２％と高く、都の平均と比べても４．６ポイント高かった。
○「B　読み解く力に関する内容」の「解決する力」では、都の平均を５．２ポイント上回った。

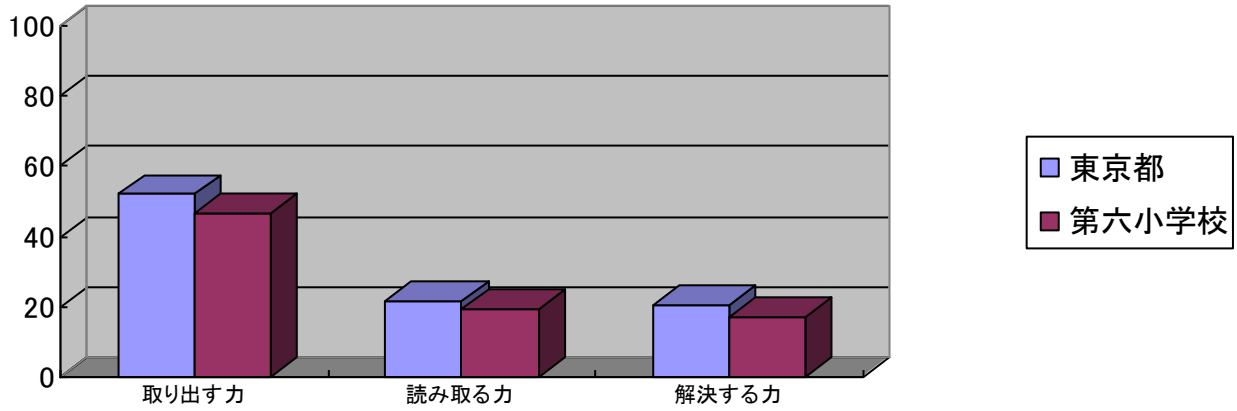
課題

●「B　読み解く力に関する内容」のうち、特に「取り出す力」に課題があり、都平均より９．２ポイント下回っていた。「必要な情報を正確に取り出す力」の育成を図る授業の改善や工夫が必要である。
●「A　教科の内容」のうち、特に「知識・理解」に課題があり、都平均より１７ポイント下回った。知識・理解についての重点的な指導が必要である。

算数A



算数B



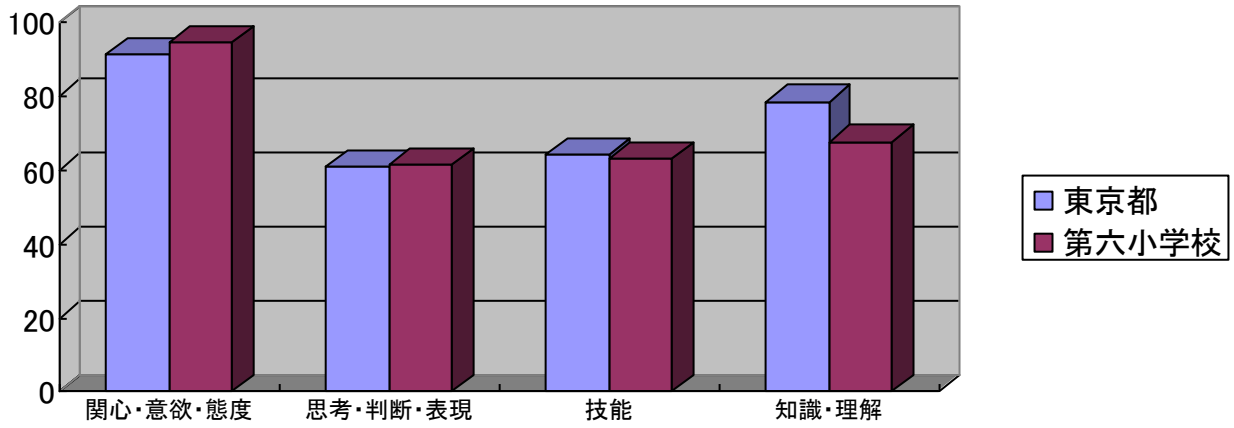
児童の現状

○「A　教科の内容」の「関心・意欲・態度」が東京都の平均に比べ５.５ポイント低かった。
○「A　教科の内容」の「技能」は、東京都の平均とほぼ一緒であった。
○「B　読み解く力に関する内容」は全体的に３～５ポイント、都の平均よりも下回った。

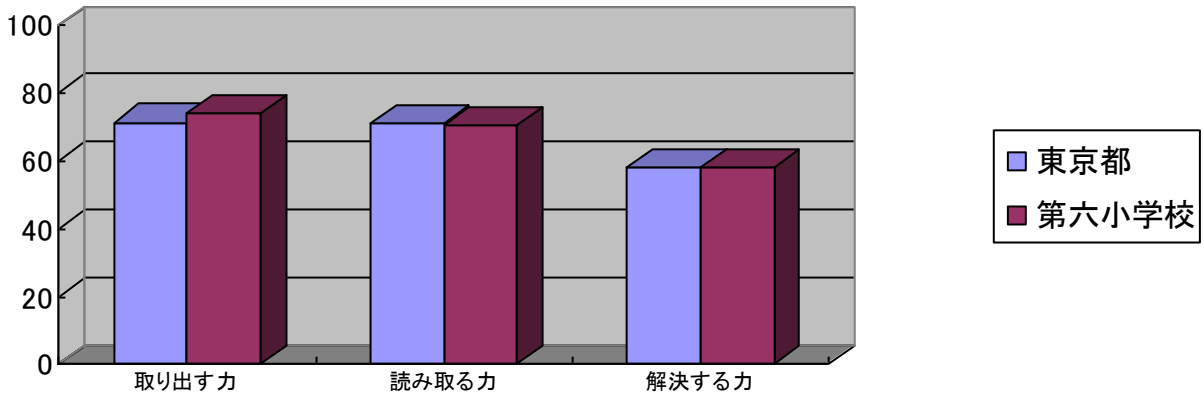
課題

●「A　教科の内容」の「数学的な思考・判断・表現」は、都の平均を７ポイント下回った。既習事項を生かし、考える力を育成する授業の改善や工夫が必要である。
●「B　読み解く力に関する内容」では、「取り出す力」に課題があり、問題の中から必要な情報を取り出すことが十分にできていない。「必要な情報を正確に取り出す力」の育成を図る授業の改善や工夫が必要である。

理科 A



理科 B



児童の現状

○「A　教科の内容」の「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」が、都の平均を３.３ポイント、０.７ポイントそれぞれ上回った。
○「A　教科の内容」の「知識・理解」では、都の平均を１０.８ポイント下回った。
○「B　読み解く力に関する内容」の「取り出す力」は、都の平均を２.７ポイント上回った。

課題

●「A　教科の内容」の知識・理解では、都の平均を１０.８ポイント下回り、自然事象等についての基礎知識の習得に力を入れる必要がある。
●「B　読み解く力に関する内容」は全体的に都の平均と差はなかったが、今後も「問題解決的な学習の充実」、「思考力・判断力・表現力等」の育成を図る必要がある。

◆その他の資料を活用した分析

活用した資料名	分析結果
＜みんなの学校生活アンケート＞	・「学校で学ぶことで、学習する力や運動する力が伸びている」という設問に「とてもそう思う」、「そう思う」と答えた児童の割合は、９７％であった。 ・「授業がよく分かる」、「授業が楽しい」という設問には、８０％以上の児童が「とてもそう思う」、「そう思う」と答えていた。しかし、どちらにも「あまりそう思わない」、「そう思わない」と答える児童の割合が約１０％であったことが分かった。

３ 児童・生徒の学力・学習状況等の課題（上記2の分析を踏まえて）

○既習事項の定着
○保護者・地域人材の力を活用した授業の継続的な実施
○授業改善推進プラン、立川スタンダード２０の徹底

４ 授業改善策（上記1～3の記載事項を踏まえて）

改善の観点	具体的な改善策
効果的な板書	・校内共通のめあて、まとめのカードを活用し、掲示する。 ・めあてからまとめまで１単位時間の流れが分かる板書をする。 ・前時までの既習事項を必要に応じて掲示する。
学び合い	・自分の考えが表現できるように、ノートやワークシートの形式を工夫する。 ・次の三つの学び合いを発達段階や学習活動に応じて取り入れる。 ①自分の考えをもつ手段として、友達の考えを聞いたり、自分の考えを発表したりして、学び合いの楽しさを味わせる。 ②考えが同じ児童同士や考えが違う児童同士のペアをつくり、学びを深める。 ③違う考えの児童同士で、考えを比較し検討しながら、それぞれの考えのよさや特徴を捉え、自分の考えを深める。
まとめの工夫	・授業を振り返り「分かったこと」や「分からなかったこと」を自分の言葉（図、表、グラフなども活用しながら）でまとめ、自己評価を行う。
学習環境の工夫	・４５分の流れを示し、見通しをもたせるミニ黒板を活用する。 ・ユニバーサルデザインの視点から、教室前面には授業に必要のないものは掲示しない。 ・学習の目的に応じて、ＩＣＴを効果的に活用する。
地域・保護者と連携した授業の推進	・地域・保護者と連携できる学習の計画に基づき、授業を行う。 ・金曜日の「さんさん算数」等、地域・保護者との連携をしている指導体制を今後も継続していく。
補充学習	・毎週木曜日に、既習事項の定着が不十分な児童に補充学習を行う。
家庭学習	・連絡帳を活用し保護者に毎日確認してもらうことで、家庭での宿題の把握を促す。 ・各学級、毎日、音読・漢字・計算（算数）の家庭学習を実施する。 ・学年の発達段階に応じて、自主学習に取り組ませる。